



外国文献紹介

同側の大腿骨頸部骨折および骨幹部骨折の診断能の改善について

Rogers NB et al : Improving the diagnosis of ipsilateral femoral neck and shaft fractures. J Bone Joint Surg Am 102 : 309-314, 2020

筆者らは、鈍的外傷で大腿骨骨幹部骨折があり、CT 上大腿骨頸部骨折が認められなかった患者 33 例に対して、不顕性骨折を評価する目的で、MRI を実施した。MRI は、脂肪抑制のない T1 強調像と STIR 像の冠状断像に限定し、各症例 10 分未満で検査を終了した。その結果、33 例中 4 例（12.1%）で大腿骨頸部骨折が発見された。そして、CT では、大腿骨頸部骨折が過小評価される可能性があるが、複数の外傷を負った患者では、限定された撮影条件の MRI を行えば、必要な治療を遅らせることなく診断が可能であると述べている。

瀬戸一彦